

論述課題1 本文を三百字以内で要約しなさい。

論述課題2 「しかし、いまや、そのようにいっさいの絆を切って自由になったことが、一人の、取り替えのきかない個人であるということの土台を、ヒタヒタと浸食しつつある」とある点について、具体例を一つ挙げてあなたの考えを八百字以内で論述しなさい。

論述課題1 要約例

近代以前の伝統的社会では、青年期はなかった。近代化とともに社会的な役割を習得するための訓練期間が長くなったことと、社会的な役割の選択が、出自を問わず、個人の自由に委ねられるようになったこととにより、個人の人生に「青年期」が生まれ、アイデンティティーの確立、すなわち、社会的な役割をあらわす言葉による自己定義が青年期の課題となった。現代は近代の延長上にあり、依然としてアイデンティの確立が青年期の課題である。現代では、性別までも、出自から役割へと変化している。しかし、一切の出自を立ち切って自由になったことで、返って一人の取り替えのきかない個人であるという

ことの土台が浸食されつつある。293 字

## 論述課題 2 具体例を挙げての論述例

たとえば、ニートとよばれる若者の出現が社会問題化している。ニートとは、「学校にも行っていない、職にも就いていない、働くつもりもない若者」を指す。現在、日本にはこのような若者が数十万人いると言われる。

自由とは社会的役割を表す言葉による自己定義を目指すものであり、本来積極的性質を持ったと言える。しかし、自由は、他から拘束されず自分の意志・感情に従って行動できることである以上、「何もしない」という消極的な態度を選択することをも含むことになる。ニートはこのような消極的な自由を選んでいる者達である。享楽・引きこもり・行き詰まり・自信喪失などを理由にするにせよ、ニートといわれるものが存在しうるのは、個人が「自由」になったことによる。これは近代化の一つの進行である。

しかし、ニートは、仕事につかない以上収入源を持たないわけで、自立は困難であり、社会的に見れ

ば、「一人の、取り替えのきかない個人であるということの土台」を失っていると言える。つまり、ニートの発生は、自由ということの自殺現象とでも言うべきものである。

ニート対策としては、公的機関やNPOなどにより、ニート個々人に対し、精神的・技術的な支援をし、実際の体験を通して認識を変えさせていく等の地道な努力が必要であろう。

しかし、ニートが「自由」を存在根拠とする以上、これらの対策は、自ら腰を上げないニートに対しては、「呼びかけ」に留まらざるを得ない。自己の「自由」を行使してこの「呼びかけ」に応じないニートは、親の庇護を失う時、不自由の身に転落をせざるを得ない。(約 659 字)

(大庭健『私という迷宮』に基づく)